

2008 年 4 月 25 日

## プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内、もしくは 2008年4月15日】

団体名 手・サッカー協会

### 報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度、写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

手・サッカー大会

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

障害のある人もない人も相互に接する機会が少ないがゆえに、なかなかお互いを理解する事ができない。障害のない人には障害は個性という事を理解し、何も特別な事を考えなくてもいいのだということを理解してもらい、それを受け入れ積極的に障害のある人と関わる事ができるようにする。同じように障害のある人も何も特別な事を考えなくてもいいのだということを理解してもらい、積極的に社会参加ができるようにする。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

1. 会場: 光明養護学校体育館
2. 参加者: 障害者、小学生、大学生、社会人等
3. 実施時期: 交流試合 9月29日 大会 11月10日
4. 参加者: 大会 60名 交流試合 30名
5. 人員: 職員1名、協力者10名、ボランティア10名

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

車イスを使ってハンドボールに似たゲームを行うが、車イスをこげない障害者に対してもポジションがあり、その人又はその人が乗っている車イスにボールが当たれば得点となるルールにしている。また、それ以外にも手でボールをキャッチできない人に対しては、ボールがその人又は車イスに当たった時点でパスが通ったとみなし、審判がその人にボールを渡しゲームを再開するなど、あらゆる事を想定してルールを作っている。その結果、誰もがゲームに参加でき、障害の有無を超えて楽しみ、相互間の理解を深める事ができた。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

勝ちたいと思う反面、知的障害のある方にボールが渡ると、その人がボールを誰に渡してしまうか分からない、つまり、相手チームの人に渡してしまう事も起こります。でも、みんな、それを逆に楽しんでいるように見えました。確かに勝ち負けにこだわりたいのですが、それだけではないと言う事に気づき、自分のペースではなく、相手の行動を待つという気持ちになったからだと思います。特に、小学生などは自分だけではなく、相手の事を思いやる事ができるようになったのではないのでしょうか。このように、障害のあるなしに関わらず、相手を思いやる気持ちを育む事が人間教育としての基本になると思いました。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

